

# か み がた 加三方

～地元を見守ってきた祭祀遺跡（たいち墓）～

## 目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス

資料  
番号

K9

初版：2025.11.04



## 1. おすすめポイント

★磐座の前に展開する平面的な巨石群、お祭り広場のよう

見晴らしも良く、花見にも使われているようです  
ピクニックに最適では？

## 2. 説明



2-1 空撮写真 直上より



### かみがたいわくらしいせき 加三方磐座遺跡 (和気町指定文化財)



赤磐市と界する金子山の中麓に位置する古代遺跡です。巨石を中心に大小40個あまりの自然石が配されており、農耕祈願や収穫感謝の儀式といった古代の農耕祭祀に関わる遺跡と考えられています。地元では「たいち墓」とも呼ばれ、後世では花見や雨乞いに使われていたそうです。古代の生活を知る上で貴重な文化遺産であり、和気町指定文化財となっています。

和気町

### 現地説明板

下記 参考文献1「八木敏乗, 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫145). 日本文教出版, 1990, p72」より枠内引用させていただきます。

#### 加三方

和気郡佐伯町

和気郡佐伯町加三方の南方、金子山(三〇〇㍎)の中腹丘頂(約二〇㍎)に遺跡は展開している。

この地は古くから、太一墓(中国古代の最高神天帝を祀る所)として伝承されており、学術的調査は今だ行われていない。この遺跡の全体像などからして、古墳(石室墓)と推察され、域内に小型横穴式墓一基を伴い周辺にも同類を敬見する。

最頂部に神石(磐座)を据え、東北面して大小、数十個の石を配し、それぞれ環状列石、併列組み石、組み配石等の多様な石の造形を見る。

遺跡の規模は大きく、巨大な石を数多く列・配石している点に特徴を示し、頂部より北面して、前左方約二〇㍎から、頂部の神石へ向かって、傾斜度約一五度のほぼ同一面上を長径約二〇・五㍎、幅約一㍎、厚さ不詳(約一㍎)の巨

石を八個、長い方を東西に並列に据え付けている状態は、巨大横穴式石室の天井石の露出を思わせる観があり、また頂部神石と思われる巨石のすぐ東には、中央に一個の石を配し、この石を中心として半径一・五㍎の環状列石を構成するなど、多様な造形の組・配・列石の容相を見せ、県内はもとより全国的にも、稀例の遺跡として注目すべきである。

この遺跡の多様な造形式の模様からしてこの遺跡が、当初から現遺構の完工を見たものでなく、築造が数次にわたって増補されて、現在の形態を構成したものと考えられる。





3-1



3-2

山側を背に磐座を見る



3-3



## 磐座山古墳

磐座から南側に  
やや下った位置  
説明板の近く



3-4

位置関係



3-5

横穴式石室



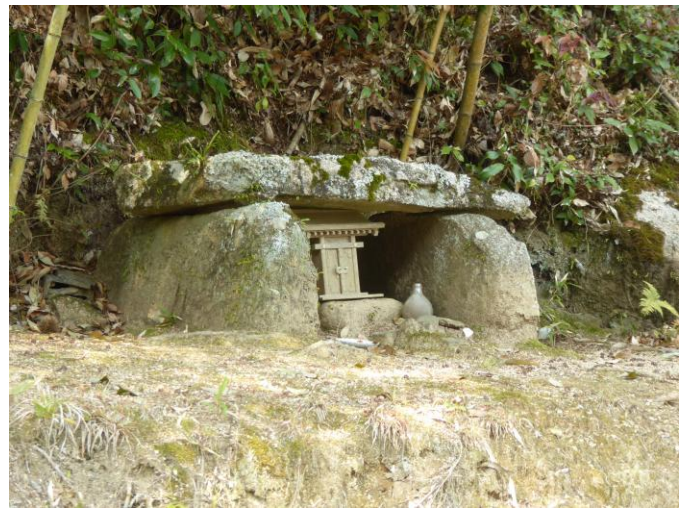
3-6



## 地元では石を用いた祭祀が今も息づいている



3-7 古墳の石室を利用？



3-8



3-9



## 4. 「鳥の目」で

2020.4.16



4-1

北を望む



4-2





4-3

斜め上から



4-4

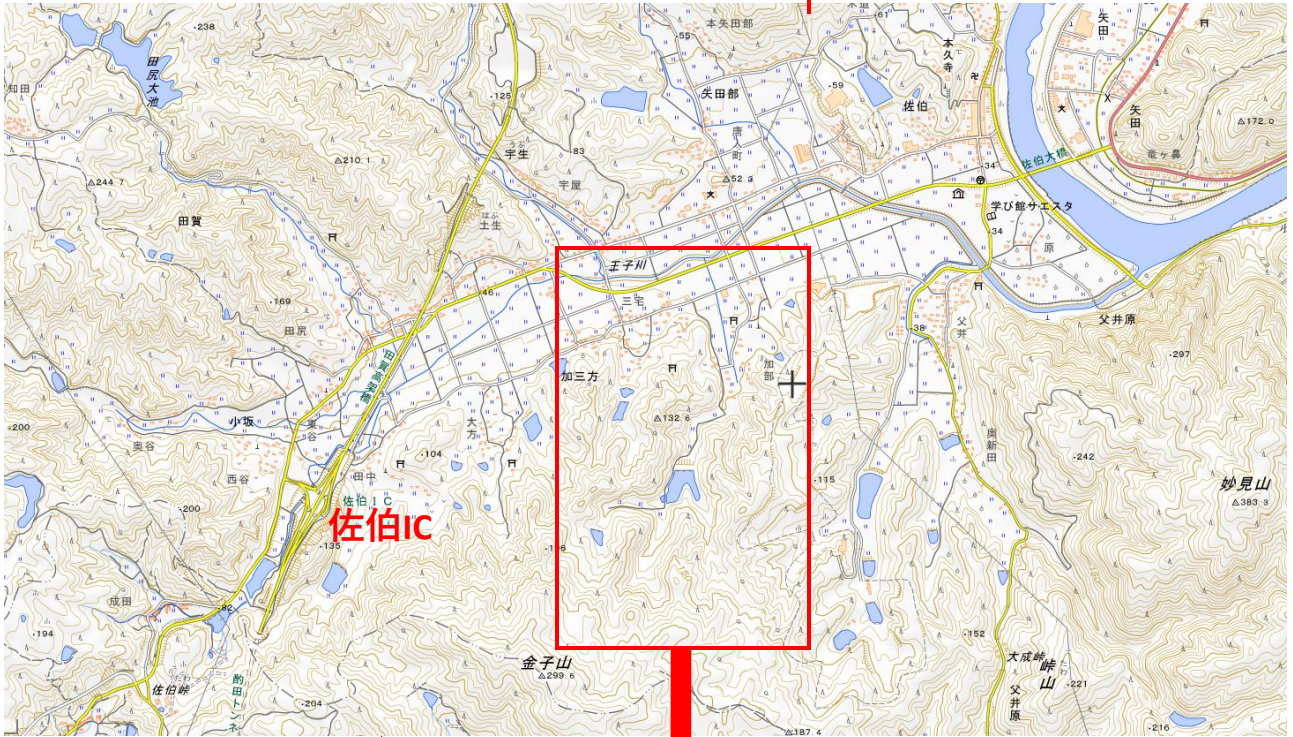
直上から



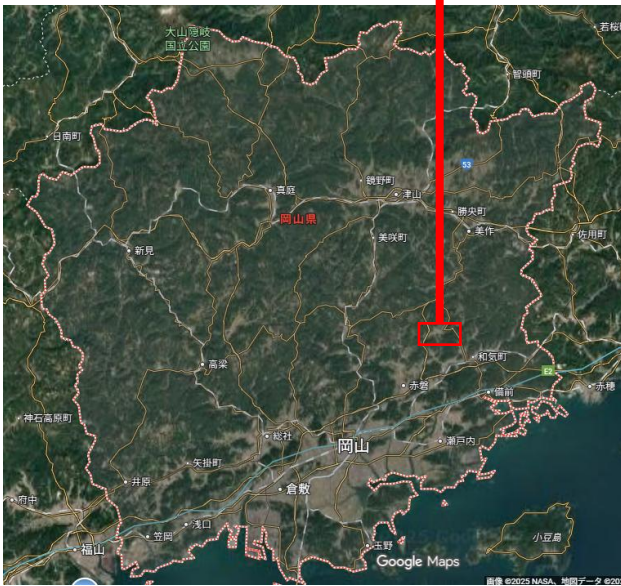
# 5. アクセス

地理院地図に赤で追記

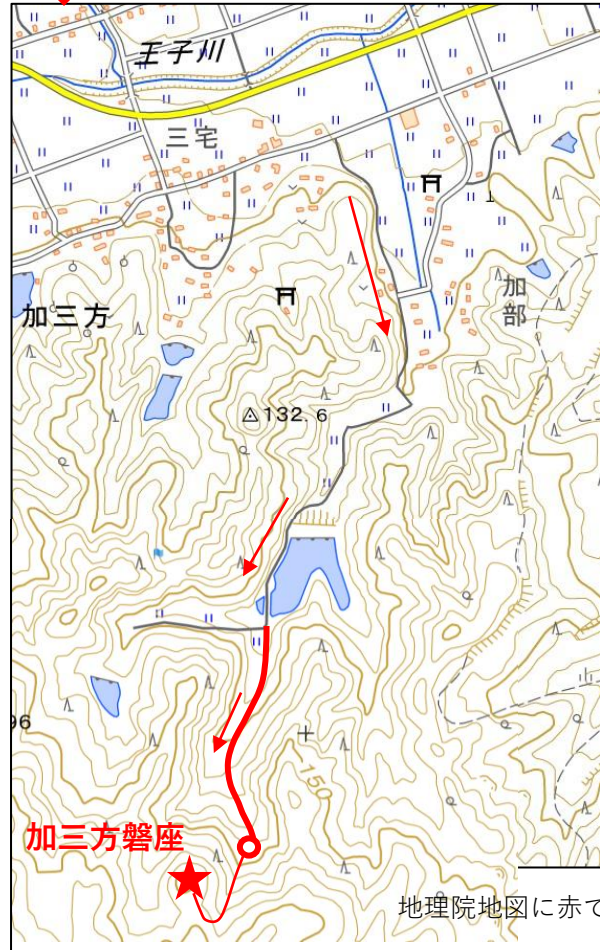
N  
4  
+



岡山県和気郡加三方



5-3



5-1

5-2

地理院地図に赤で追記



## 参考文献

- 1) 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, 173p.